

文部科学省 情報ひろば 『サイエンスカフェ』

主 催 : 日本学術会議、文部科学省
日 時 : 平成26年5月23日(金) 19:00~20:30
場 所 : 文部科学省情報ひろばラウンジ(旧庁舎1階)
テ ー マ : イヌの気持ち、飼い主の気持ち
講 師 : 武内ゆかりさん(東京大学大学院農学生命科学研究科准教授)
ファシリテーター : 渡辺政隆さん(日本学術会議連携会員、筑波大学教授)
参加人数 : 28名

「ペットフード協会による平成25年の調査によれば、日本でイヌを飼っている世帯数は約863万世帯で、全体の16%近くに及びます。そうした家庭では、イヌが伴侶動物として家族の一員となっているはずで、イヌの行動学を理解すれば、ワンちゃんのことがもっとわかるはずです。今回のサイエンスカフェは、イヌの気質に関する行動遺伝学と行動治療の研究をしている武内ゆかり先生をゲストに迎え、イヌの問題行動とその解決に向けて、イヌの心理とそれを踏まえたイヌとの接し方・暮らし方についてわかりやすくお話をしていただきました。



話題提供の主な事項

🐾 人とイヌとの長い付き合い

- ・狩猟のパートナーとして、あるいは番犬として一万年以上の長い付き合いがある。

🐾 野生のイヌの家畜化による行動の変化

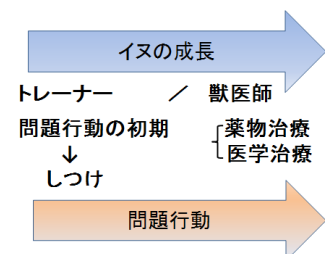
- ・ロシアにおいて人懐こいギンキツネだけを選んで交配を重ねたところ、20世代目になるとイヌのような形状で人懐こいキツネが多く生まれるようになった。

🐾 イヌの問題行動とは

- ・正常な行動から逸脱した行動、行動は正常なもののその多寡が異常なもの(過食・拒食など)、来客に特に頻繁に吠えるなどの“人間社会”から見て非協調的な行動。
→アメリカの記事では、5秒に1頭が安楽死させられている状況下、その大きな理由がイヌの問題行動によるものと紹介されたことがある。

🐾 トレーナーと獣医師との役割分担(問題行動の修正)

- ・トレーナーはイヌの問題行動の初期段階において、イヌの先生としてしつけを行って問題行動の修正を行う。獣医師は薬などを用いて医学的な治療も行うが、動物行動学の理論を用いてその判断を行うようになったのは、比較的最近のこと。



🐾 イヌの表情変化から読み取る心理状態

- ・イヌの威嚇表情のイラスト2種類(違い-耳が立っている、耳が倒れている)を示して、どんな心理状態にあるかを参加者に推理させる。また、犬歯を見せたり口角を引くなどのイヌの表情を見ながら、それが攻撃心の増大なのかそれとも恐怖心の増大なのかを解説。

🐾 学生実習的一幕紹介

- ・ 武内先生が担当する実習中に経験した、獣医学生が飼っていたイヌのビデオを映して、イヌの問題行動の背後にある心理状態を理解して治療をしていくことの大事さを解説。

🐾 行動診療科とは

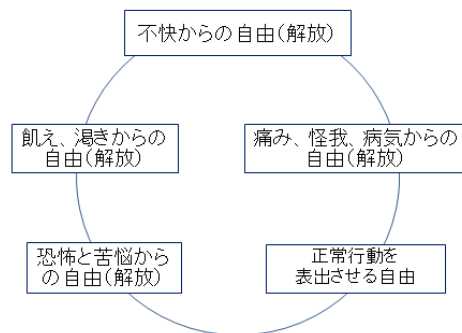
- ・ 攻撃行動や分離不安、常同障害（目的もなくあるしぐさや行動を繰り返す）、過剰吠えなどの問題行動に対して、基礎動物行動学の知識をもとに診療する。

🐾 問題行動の予防について

- ・ 適切なコンパニオンアニマルの選択（品種、性別、年齢、ブリーダー、飼い主の家族構成やライフスタイルを考慮する）。十分な社会化（様々な人、動物、音、場所、自動車、自転車などに慣れさせる時間が必要→イヌにとって、3～12週齢が社会化期にあたる）。子イヌ教室などで問題行動の兆候を早期発見。

🐾 アニマルウェルフェアの基本概念

- ・ 五つの「自由」。



『ある国の偉大さやモラルの高さは、その国における動物の扱われ方を見れば判断できる（ガンジー）』

🐾 問題行動の予防のために飼い主さんにお願いしたいこと

- ・ 無理にマズルコントロールをしない。服従姿勢を強制しない。体罰を行わない。

🐾 イヌと飼い主とのより良い関係を築くためのリラクゼーショントレーニング

🐾 イヌの行動遺伝学

参加者の皆さんとの質疑応答・意見交換の一部を御紹介します

（◆－参加者、●－講師、ファシリテーター）

- ◆ 自分の体験として無理にマズルコントロールをしたために、飼い犬に噛み癖をつけてしまった時期があったため、今日のお話をもっと早くに聞いていればよかったと思いました。最近、わたしが床に座っていると飼い犬が変な姿勢でわたしの膝に座りたがりますが、これは問題行動の一種なのでしょうか。
- おそらく、少しでも飼い主に触れていたいという欲求からくるものだと思いますので、特に修正する必要はないでしょう。実際的に困っているのであればしつけが必要ですが、イヌの愛情表現の一種だと受け入れてみてはどうでしょうか。
- ◆ 子イヌの里親募集のボランティアをしています。ある子イヌがとても怖がりです。1週間

もケージから出てこなかったりします。今、1歳ぐらいなので社会化期に問題があったのでしょうか。

- その子はブリーダーから預かったのかペットショップ？（→捕獲されたイヌとの答え）。ケージの中から人間を見て安心して暮らせることがわかってから、徐々に扉を開けて人間に近づくことができるようにしてあげるのも一つの方策です。抗不安薬の薬を処方する手立てもあります。一、二か月服用を続けて治ってくるのであれば、新しい飼い主さんに渡すときには服用をやめられるようにすることもできます。一般的に一年間続いた問題行動を治療、修正するには二年間が必要となるでしょう。

- ◆ さきほど、イヌの表情について色々説明がありましたが、うちのイヌはよく舌をペロッと出します。舌を出すのは嫌がっている気持ちの表れと聞いたことがあります。舌先をチョロッと出すのと、ペロッとかなり長く出すのでは何かちがいはあるのでしょうか。



- 確かに舌を出すのはストレスを受けているサインだと言われています。しかし、“文脈”（行動の流れ）に沿って判断しなくてはなりません。舌を出すのは、散歩の後などで上がった体温を発散させるためもありますし、一概に不快な心理状態にあるとは言えません。また、加齢などの影響で舌が口元からいつも出てくるようになりますが、それはそれで愛嬌があると思ってかわいがってあげたらいいでしょう。

- ◆ エサは主にカリカリフード（固形）をあげていますが、おいしく食べている、満足しているというサイン（表情）はありますか。

- たとえば、一般的な固形のペットフードとお肉風味（シーザー）のようなエサとを食べ比べる、選択試験をすればそれが分かるかもしれません。最近のイヌ、特に小型犬は食が細くなっている傾向があるようです。残さず食べられているときは、あまり気にしなくてもよいでしょう。誕生日ぐらいにはいつもはあげないようなごほうびを食べさせてあげたらどうでしょうか。

- ◆ イヌは他のイヌを見分けているのでしょうか。うちのイヌは散歩のときよくにおいを嗅いでいるのですが、においはイヌにとって重要情報になるのでしょうか。

- イヌは他のイヌを、イヌだと（人間やほかの動物などとは違う同種の存在だと）分かっていると思います。それは、においで判別しているのです。イヌ特有のにおいがあり、同種なのかどうか、体調の情報、繁殖のシグナルなどを嗅ぎ分けているようです。

- ◆ 自分のしっぽを追いかけてまわす常同障害の発現時期はいつ頃が顕著なのでしょうか。

- 5～8週齢のようにイヌを手に入れた直後から生じる場合もあります。ただ、飼い主さんは数か月齢の頃に一番多く、1歳までにはそのような異常行動に気づきます。7歳を過ぎてから発現した例もありますが、一般的には2歳を過ぎててもそのような常同障害がおこらなければ、まず、その後に発現することは少ないと思って良いでしょう。

う。

- ◆ イヌが眠っているときに尻尾を振ったり、まるで散歩しているかのように足を動かしたりする時があるが、そんな時は夢をみているのでしょうか。
- 起こして聞いてみないとわかりませんが、おそらく夢をみているのだと思います。猫は脳波検査をして人間同様にレム睡眠とノンレム睡眠があることがわかっていますが、イヌも同じように睡眠に区分がありレム睡眠のようなときに夢をみているのだと思います。

ファシリテーターから *****

武内さんの話題提供を聞いて、イヌの問題行動は飼い主の影響が大きいと思いました。また、一般的に昔から言い継がれてきたことが実験や考察の結果、科学的な裏付けがとれることであることもわかりました。イヌも長生きするようになり飼い主がますますイヌの健康を気遣うようになったりして、イヌにも薬が身近になりましたが、成分は人間と同じなののでしょうか（→成分は同じですが、経口薬はお肉の味がついていたりします）。大型犬と小型犬とで行動に差はあるのでしょうか（→犬種による行動の違いはもちろんあるが、個体差も大きいといえます）。

参加された方々が今日のお話を聞いて、もっともっとワンちゃんを愛せるようになってくれればいいなと思いました。
